

国産鋼材を使用した霧信号所

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第060号
名称（型式等）	旧犬吠埼霧信号所霧笛舎
所在地	銚子市犬吠埼 9576
設立（竣工）年	明治43（1910）年

選定理由

「旧犬吠埼霧信号所霧笛舎」は、カマボコ形の屋根（ヴォールト屋根）から大きなラップが突き出した特徴的な建造物で、明治43（1910）年に犬吠埼灯台の傍らに建設されました。霧笛舎は濃霧などで視界が不良なときに音で灯台等の位置を船舶に知らせる施設です。犬吠埼沖では暖流と寒流が交わるため、梅雨のころに濃霧が発生しやすくなり、霧笛による灯台等の位置の確認が不可欠でした。

この霧笛舎は壁から天井に至るまですべて鉄製で、建築面積は102.25㎡あり、明治後期の日本の灯台付属施設の特徴をよく示しています。明治30～40年代にヴォールト屋根を持つ鉄造の霧笛舎は北海道など各地に建設されましたが、現存するのは犬吠埼だけです。また、使用された鋼材は、その成分から創業間もない官製八幡製鉄所製である可能性が高く、国産の鋼材を使った現存最古の建物とみられています。船舶用計器の発達に伴い、平成20（2008）年3月に霧笛舎としての運用は終了しましたが、現存する唯一の鉄造霧笛舎建造物として明治期の灯台施設を象徴するとともに、近代産業発展の一面を示す施設としても貴重です。

平成26（2014）年12月19日に国の登録有形文化財に登録、令和2（2020）年12月23日に灯台、旧倉庫とともに国の重要文化財に指定されました。



全景

協力：銚子海上保安部

参考資料：「社会の発展を支える国産鋼材と鋼構造物の原点 犬吠埼灯台霧笛舎」

NIPPON STEEL MONTHLY 2012.7

「明治から昭和戦前期の日本に建築された霧笛舎の建築的特徴」山崎鯛介

日本建築学会計画系論文集 第76巻第664号 2011.12